

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

日本の若者の避難先

コロナ禍にあってもNYダウは史上最高値を更新しつづけています。8月半ばには35500ドルを突破する一方で、日本の主要指標である日経平均株価は低迷しています。1989年の大納会でつけた高値を32年経っても抜けない日本と米国とは正に雲泥の差です。

NYダウの上昇力を支えるものにコロナ禍を意識した強力な景気対策がありますが、そればかりではありません。GAFAMに代表されるIT企業を追いかけるように、次世代分野にチャレンジしているユニコーン企業が5年おき、10年おきにマーケットに登場してきます。遅い新興企業が投資家に富をもたらす好環境が継続しているのです。

日本の若者の資産運用が米国株式に積極的であることは有名です。イデコにはじまり、分散投資や積立投資で「老後2000万円問題」に備える真面目な若者が珍しくありません。彼らは日本株より米国株に信頼を寄せています。若者の金融資産の避難先は米国なのです。

かつて「オイルマネー」に負けないような「ジャパンマネー」などと言われた時代がありました。その時は日本企業に勢いがありました。海外ビジネスで利益を得ながら、いざ国内に資金還流しようとするれば強烈な円高を仕掛けられ結局懐に入らなかった惨めな国ぶりは今も変わりません。

オリンピック閉幕直後から、日本の株式市場ではグロース株(新興企業株)が叩き売られ、オールドエコノミーである海運株が人気化しています。コロナを克服した中国への荷動きが活発になることで潤ってきた海運業ですが、成長可能性を秘めた小さな会社を売って、旧財閥系大会社に乗り換えるとは将来に夢も希望もない国の話かと錯覚してしまいます。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年度も拙文にて皆様に経営者として日頃より感じている事を綴ります。今後とも当社をよろしく願い申し上げます。

松本 隆一郎